

根^ね
源^{げん}
實^み
紫^{むらさき}

上の巻

9 60 1 2 3 4 5 6 7 8 9 70 1 2 3 4 5 6 7 8



曲玉園画

此若武部
父越後守
為時
の在国

たれ
たれ
たれ
たれ

後
の
候
に
あ
り
ま
す

根源

實紫

上卷

笠亭仙果作
梅蝶樓國貞画



泉
喜
太
板



實世の實心り摘み此式部藤原為時女兄也勝
 て文学の穎敏諸藝不達情ふく篤実温行の賢
 婦る右衛門権佐宣孝の嫁一太貳三位越後弁の二女
 と産宣孝早物故りて京極の家小寡居一後上東門
 院の中宮に居り宮仕一白氏文集の樂府と教をあらせたること
 久るさるりの日本紀局と倭名子られ又御堂殿の懸想一
 中に貞操正しく後家立より無算の一生を送りて
 と善彈新糸と若越と踊けり夫の崩ち小鱈と俗飲
 一と虚譚と石山と源氏と作初安治の罪と地獄小墮
 一と証説とあるとこれ外小記とある一假令日記の本文を
 長く續くと主とそれ北人源氏と作ける種ありと思
 實統先第一の渡殿の事ありりふ並び弘徽殿の御寵



遇失させたまふ前後のさる桐壺の更衣の准拠の必是と童蒙中の
 知せしめしこの華房掛巻も可畏き
 華山法皇の御一代記二三帙及びりるや栄花の浦の別須
 慶明石の面影あれ式部と宣孝の逸せ後又一二帙の伊周公の流
 罪のむらも虚誕なら演義して次々作べ一叔此編の画面もあつて
 此の本色と損したれと始終佛をつき守るとたる実事計の戲作
 のあるまふ似て此の同色とも四天小母を耶素輔と立者強
 盗のさしと戲作の花ハテ花が用ねが実なるをぬふこと
 ○大蟹のの日本紀局を載れ阿闍梨のり以下皆根幹一話あり
 ○道兼主の扇のの砂石を小出り保浦の幻術又藤久の愛童奇童
 九のゆるんごらふあつてさるる玉王三白く実の女所の別と懸一とさるる
 心家作とて花山小新羅姫とさるるの栄花物語は本文

癸丑春



笠亭仙果識



侍女少将

大齋院選子内親王

曲女御



中将の局

式部丞惟規





きりぎりすの
 鳴き声は
 秋の夜長を
 知らせる
 まるで
 月夜に
 響く
 音の
 響き
 心
 を
 惹
 き
 つけ
 る
 まる
 で
 月
 夜
 の
 静
 け
 さ
 を
 知
 ら
 せ
 る
 まる
 で
 月
 夜
 の
 静
 け
 さ
 を
 知
 ら
 せ
 る

馬寮の下に
 小山田の
 時を
 知る
 月
 夜
 の
 静
 け
 さ
 を
 知
 ら
 せ
 る
 まる
 で
 月
 夜
 の
 静
 け
 さ
 を
 知
 ら
 せ
 る



二入の
 月夜
 の
 静
 け
 さ
 を
 知
 ら
 せ
 る
 まる
 で
 月
 夜
 の
 静
 け
 さ
 を
 知
 ら
 せ
 る

馬寮の下に
 小山田の
 時を
 知る
 月
 夜
 の
 静
 け
 さ
 を
 知
 ら
 せ
 る
 まる
 で
 月
 夜
 の
 静
 け
 さ
 を
 知
 ら
 せ
 る

〇まじかりたまひまきく
 かこひかひのむたたまひ
 〇まじかりたまひまきく
 かこひかひのむたたまひ
 〇まじかりたまひまきく
 かこひかひのむたたまひ



〇まじかり
 かこひかひ
 のむたたまひ

〇まじかりたまひまきく
 かこひかひのむたたまひ
 〇まじかりたまひまきく
 かこひかひのむたたまひ
 〇まじかりたまひまきく
 かこひかひのむたたまひ



〇まじかり
 かこひかひ
 のむたたまひ



下の巻第十一丁目
 ○そのころだのや中つこ
 とのふゆはうなるあ
 かすこちまきまきあ
 ねとまられりこふあち
 またこころのあまこ
 けこつて人あはた
 りこのころのあま
 みんどのあまこち
 たかひあまこち
 なりあまこち
 まりあまこち
 りのあまこち
 まりあまこち
 まりあまこち
 まりあまこち
 ひろく

下の巻第十一丁目
 ○そのころだのや中つこ
 とのふゆはうなるあ
 かすこちまきまきあ
 ねとまられりこふあち
 またこころのあまこ
 けこつて人あはた
 りこのころのあま
 みんどのあまこち
 たかひあまこち
 なりあまこち
 まりあまこち
 りのあまこち
 まりあまこち
 まりあまこち
 まりあまこち
 ひろく

曲亭馬琴作

新編金瓶梅全輯

十篇大尾

為永春水作

黄金水大盡不血

柳亭種彦作

琴了聲義人録

笠亭仙果作

根源寶糸

同
 小女郎如怨苧環

三篇大尾

柳下亭種員作

児雷也豪傑譚

柳煙亭種久作

假名
 反古
 一休草紙

根ね源げん實み紫むらさき
三下の巻





Handwritten Japanese text below the illustration, including the characters '仙' and '化'.

Additional handwritten Japanese text at the bottom of the left page.

六廿三

仙 化
笑 曲
い の
ほ れ



喜太板

あまのこころ
みちのこころ
なまのこころ
あまのこころ



あまのこころ
みちのこころ
なまのこころ
あまのこころ



あまのこころ
みちのこころ
なまのこころ
あまのこころ

あまのこころ
みちのこころ
なまのこころ
あまのこころ

あまのこころ
みちのこころ
なまのこころ
あまのこころ

Handwritten text in the top left corner of the left page, likely a title or introductory text.



Handwritten text in the bottom left corner of the left page, possibly a signature or a note.

Handwritten text in the top right section of the right page, continuing the narrative or providing commentary.

Handwritten text in the middle right section of the right page, continuing the narrative or providing commentary.

Handwritten text in the bottom right section of the right page, continuing the narrative or providing commentary.

仙果作

清書

谷金川

仙果作のくもるけれどおのれ女の
さきふみちりちとあつちまひやかと
むきそわこまひけちんるまふりち
ゆきんるけちんるまふりち
とんちんるけちんるまふりち
さきふみちりちとあつちまひやかと
むきそわこまひけちんるまふりち
ゆきんるけちんるまふりち
とんちんるけちんるまふりち

とあつちまひやかと
むきそわこまひけちんるまふりち
ゆきんるけちんるまふりち
とんちんるけちんるまふりち

國貞画



十返舎 一九作
滑稽道中膝栗毛

柳水亭種清作

不思議塚小説櫻

同

風俗浅間ヶ嶽

関太郎鈴ヶ譚

五篇大尾

柳水亭菊水作

豊時田秋漣新雁

三篇大尾

柳水亭種清作

猛田姉妹新白石

同

京橋区銀座四丁目三番地

出版人 山中喜太郎





作 貞



貞園 畫

招源

意

甘



意 抄

三

